

日本共産党・入江次郎市議が一般質問

夢前町産廃処分場建設計画について



議場で質問する入江市議

明石市では廃棄物処分場の6〜9km下流の浄水場で発がん性物質トリハロメタンの数値が管理目標数値ぎりぎりまで上昇しています。平成19年の水戸

6月11日 姫路市議会本会議で日本共産党の入江次郎市議が夢前町産廃処分場建設計画について取り上げました。その要旨を紹介いたします。
詳細は<http://ire.wajcp.net/>の入江次郎ブログをご覧ください。

安定型処分場とは化学的に安定し、有害物質を含まない廃棄物を埋め立てるといのが法律上の建前です。ですから、素掘りの穴に廃棄物を直接埋め立て、廃棄物に触れた雨水や浸透水などは十分な排水処理をされないまま夢前川へと放流されて

入江市議は、計画されている安定型産廃処分場は安定型とは全く名ばかりで、裁判所の判例、日本弁護士連合会の意見書などで、「安定5品目以外の廃棄物、有害物質が処分場

有害物質が岡浄水場・置本浄水場に混入すれば 約4500世帯の住民に影響

処分場計画地から約550mの地点には岡浄水場があり、岡浄水場からは谷を越え菅生谷を含む約4000世帯に上水が配水されています。(灰色部分)。さらに下流6〜7kmには置本浄水場があり500世帯(濃い灰色部分)に配水しています。

地裁判決では処分場から5km下流に浄水場があることを理由に建設計画差し止め判決が出されています。岡浄水場(標高約86m)は処分場計画地(標高約82m)より上流

にあるものの地下5mから取水しているため処分場の排水地点より標高が若干低くなります。

ないに混入し、処分場外へ漏出することとは避けられない」という指摘を紹介。また国のもとでも裁判所の判決などを受け、現行法では「安定5品目以外の廃棄物の混入は避けられない」として検討委員会を立ち上げ安定型処分場の今後のあり方を検討中である、と安定型処分場が安全ではないと当局を質しました。仮に処分場から有害物質が漏出し浄水場に到達することになれば、広範囲の住民に重篤な被害をもたらす可能性があります。

これは、住民から「悪臭がする」という

「異物の混入はこれまでにない」「悪臭などの苦情もない」と、成臨興業 地元説明会で虚偽の報告

夢前町で処分場建設計画を進めている成臨興業は、現在、姫路市打越宮ヶ谷で安定型最終処分場を運営しています。

宮ヶ谷最終処分場では23年9月に10トンダンブ10台分の埋め立て禁止品目の混入が確認され、大量撤去の行政指導がされていたことが入江市議の調査で明らかになりました。

通報を受け行政が立ち入り検査を行い明らかになったものです。仮に住民からの通報が無くそのまま埋め立てられていれば「メタンガス」などの可燃性ガスが発生する可能性があったと市当局も答弁しています。埋立地に建設されたエコパー

ク網干でもメタンガスの発生により爆発事故がおこり作業員数名が重傷を負っています。

入江市議は「ダンブ10台分もの異物混入に気づかないはずがない。業者の処分場管理能力にも問題がある」と厳しく指摘しました。市当局も「業者側に不備」があったことを認め、今後立ち入り検査の強化などで対応すると答弁しました。

さらに成臨興業は、埋め立て禁止品目を宮ヶ谷最終処分場に搬入し、行政指導を受けていたにも関わらず24年2月に前之庄校区にある荒神山自治会で開催された住民説明会では「これまで異物の混入などない」「悪臭などの苦情もない」と全く事実と違う説明をしています。業者の企業体質にも大きな問題があります。



市長一切答弁なし

入江市議の質問に対し、市長は全く答弁に立ちませんでした。

答弁した環境局長は、「安定型処分場には5品目以外の廃棄物は混入しない」とする欠陥が指摘されている法律の枠内だけの認識での答弁に終始しました。

法と現実には矛盾が生じ、現実

こっている事に住民被害や住民不安があるのであれば行政は現実を目を向けた対応が必要です。

日本共産党は住民不安が解消され、安定型処分場の安全性が確立されない限り住民の皆さんと力を合わせ産廃建設を中止に追い込むまで全力で頑張ります。



◆6月10日には夢前川河川敷で住民600人による大規模な産廃反対集会が開催されました。集会では「夢前町の自然を守る会」の会長さん、校区代表、若手有志などが、「何も知らされていない中、こんな巨大処分場を到底認める訳にはいかない」「子や孫たちに美しい夢前を引き継ぎたい」「産廃反対一致点で全町民が団結し計画中止まで力を合わせてがんばろう」などそれぞれの思いを訴えました。◆14時からの集会を前に、13時からは荒神山、豊岡自治会を起点に会場までを2ルートでデモ行進。子どもから高齢者までそれぞれが思い思いのプラカード、むしろ旗、のぼり旗を手に「産廃いらん」「夢前川を守れ」などシュプレヒコールを上げながらのデモ行進。

広がる産廃建設反対運動 夢前川河川敷に地元住民約600人



夢前町前之庄地域に国内最大級規模、甲子園球場の約10倍にもなる産業廃棄物処分場建設計画が進められています。

しかし、多くの地元住民は建設計画があることさえ知らされていませんでした。

建設計画を知った住民達は「何も知らされていない中、こんな巨大処分場を認める訳にはいかない。子や孫たちのためにも美しい夢前の自然を守ろう」と下流域16自治会を中心に「夢前町の自然を愛する会」を立ち上げ、地元挙げての産廃反対運動を展開しています。



「会」の皆さんと同席する杉本ちさと県議と入江次郎市議。

県知事・市長・議長宛てに
要望書・請願書を提出

宛に「産廃設置許可を認めない」要望書を提出
2月、5月には、市長・議長・県知事



各地の産廃で起こっている事故事例などをスライド写真を使って報告する入江市議

自治会単位で繰り返し産廃問題の学習会を開催

4月には、住民自らが産廃について学ばなければと、自治会単位で産廃問題住民学習会を連続して開催しました。



署名10247筆を提出

6月4日には、「夢前町の自然を愛する会」がわずか1カ月間で集めた建設反対署名10247筆を県知事、市長宛てに提出。夢前町で開業する医師3名連名での要望書も同時に提出されました。

公約実現めざしてがんばります

市議員
入江次郎



市議員
森ゆき子



市議員
谷川まゆみ



市議員
大脇和代



姫路市政や市議会、日本共産党へのご意見・ご要望を多数お寄せ下さい